

---

# 赤かび病農薬および 畦畔除草農薬について



令和8年3月12日(木)  
JA全農しが 生産資材課 営農技術室

# 赤かび病



# 赤かび病

**特徴** : 小麦で最も重要な病害。  
出穂期以降の降雨などにより、発病が助長する。

複数の病原菌によって発病するため、  
異なる作用の薬剤による体系防除を行う。  
また、人畜に有害なかび毒(DON)を産生する菌がある。

開花期間に感染し、赤かび粒となりDONが蓄積。  
登熟後半に発病穂内で二次感染する。  
二次感染した部位は赤かび粒にならず、  
外観上健全だが、DONは蓄積している。

# 赤かび病

## 病原菌

病原菌の種類	DON産生	発病条件
<i>Fusarium graminearum</i>	有	高温多雨
<i>Fusarium avenaceum</i>	無	
<i>Fusarium culmorum</i>	有	
<i>Microdochium nivale</i>	無	低温

## 赤かび粒

赤かび病被害粒の混入 0.0%

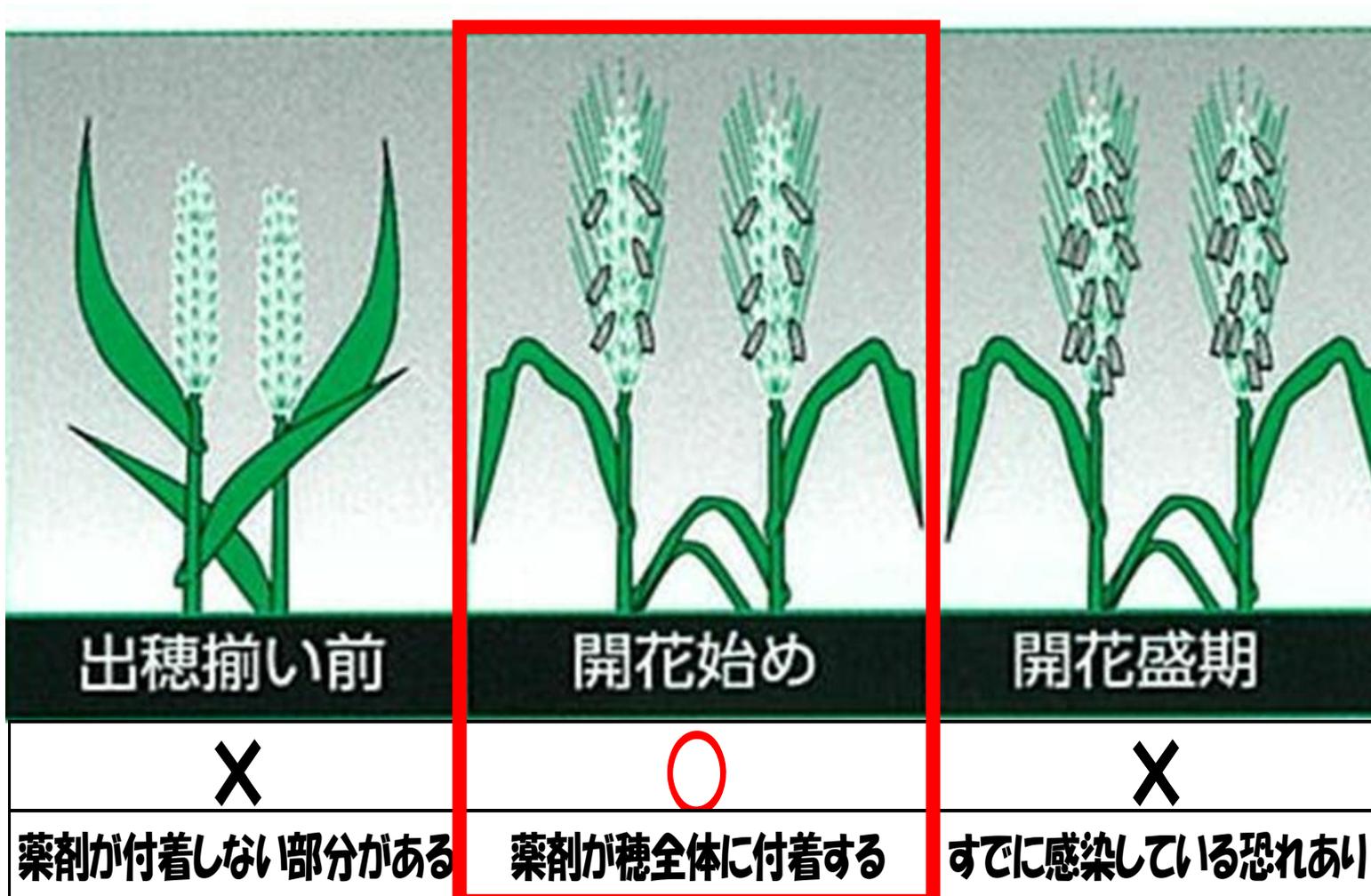


赤かび粒

健全粒

# 赤かび病

## ◆1回目防除のタイミング



# 赤かび病防除体系

「びわほなみ」は、赤かび病多発年は3回目の防除が必要。

## ■ 病虫害防除

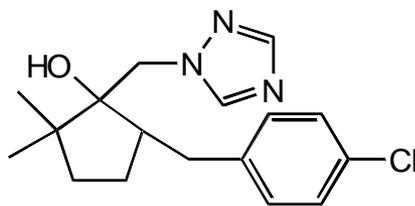
	農薬名	適用病害名	使用時期	使用量		使用回数	使用方法
				薬量(希釈倍数)	希釈水量(10aあたり)		
殺菌剤	トリフミン水和剤	なまぐさ 黒穂病	播種前	乾燥種子量の 0.5% (種子10kgに 対して薬剤50g)	—	1回	種子粉衣
	ワークアップ粉剤DL	赤かび病	収穫7日前 まで	3kg/10a	—	3回以内	散布
	ワークアップフロアブル			2000～3000倍	60～150ℓ		散布
				10～24倍	0.8ℓ		無人航空機 による散布
	ミラビスフロアブル	赤かび病	収穫7日前 まで	1500～2000倍	50～150ℓ	2回以内	散布
8～16倍				0.8ℓ	無人航空機 による散布		

	1回目 開花始め	2回目 開花始めの7～10日後	3回目 2回目の7～10日後
粉剤防除	ワークアップ粉剤DL	ワークアップ粉剤DL	ワークアップ粉剤DL
液剤防除	ワークアップフロアブル	ミラビスフロアブル	ワークアップフロアブル

# ワークアップ®

一般名：メトコナゾール metconazole

化学構造：



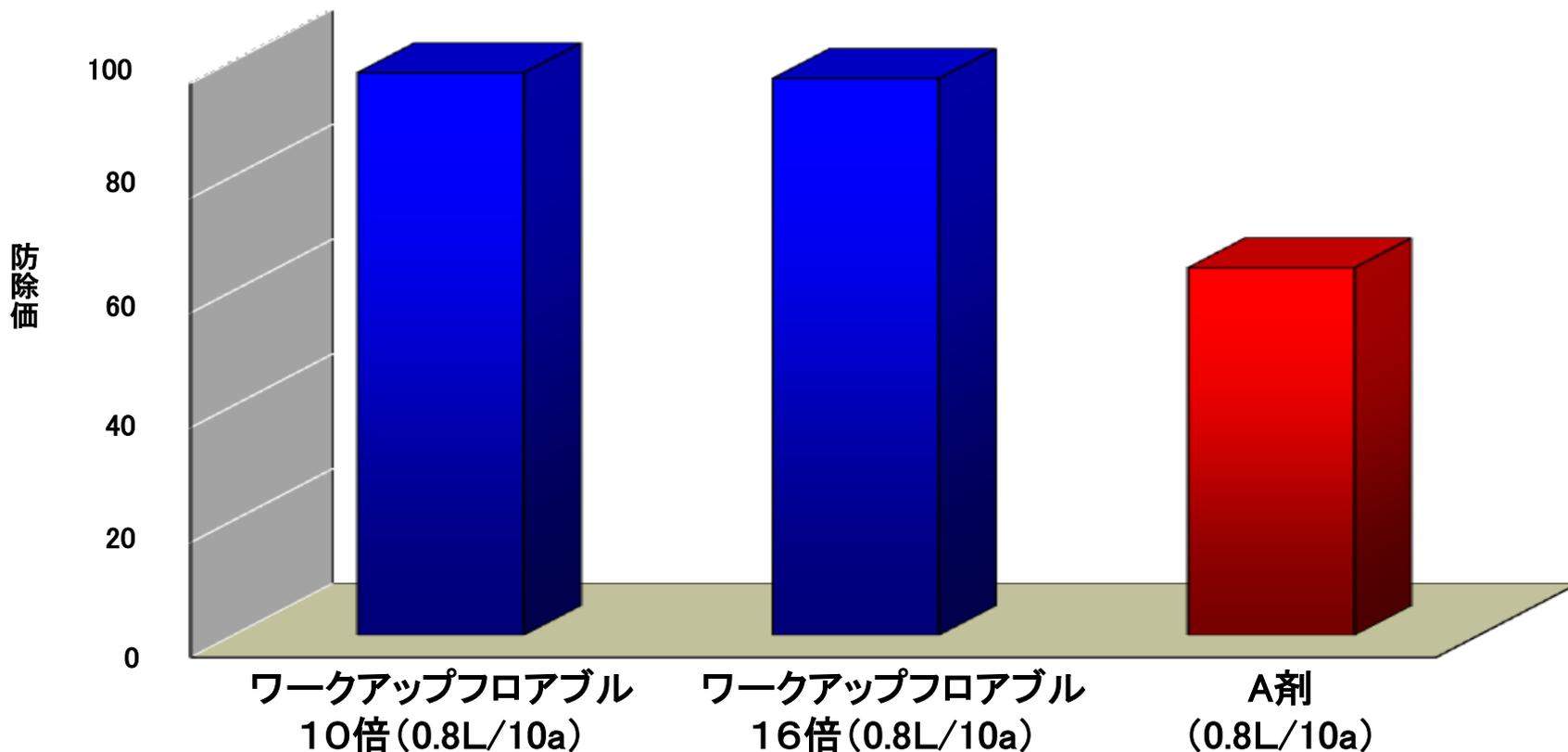
特長

系統：トリアゾール系殺菌剤  
(EBI剤)

- ・シルバキュア
- ・チルト など



1. 麦の主要病害(赤かび病・赤さび病・うどんこ病)に優れた効果を示す。
2. 赤かび病菌が産生するカビ毒(DON; デオキシニバレノール、NIV; ニバレノール)の低減効果に優れる。
3. 浸透移行性があり、降雨の影響を受けにくく、耐雨性に優れる。



実施機関: 社団法人 北海道植物防疫協会

供試作物: 小麦 品種「春よ恋」

薬剤散布: 2008/6/26、7/3

区制 : 1区 225m<sup>2</sup> (30x7.5m)

調査 : 7/16に、各区3カ所それぞれ100穂について病穂率、発病小穂率を調査した。(防除価は発病小穂率より算出)

無処理区発病状況: 病穂率 11.0%、発病小穂率 3.48%

無処理区病原菌: *Fusarium graminearum* 96%, *F. avenaceum* 4%

# 赤かび病防除剤



# 3つの特長

## SDHI固有の効果

小麦の赤かび病ローテーションに新たな選択肢

既存の殺菌剤とは異なる新しい系統

- 新規系統で小麦赤かび病に新たな防除体系を確立
- 独自の分子構造で優れた効果を発揮



## 雨に強く、効果が安定

さまざまな気象条件でも安定したパフォーマンスを発揮



ワックス層への素早い取り込みと緩やかな上方移行性

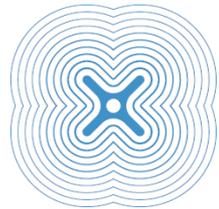
耐雨性あり  
残効性あり

## 赤かび病の原因菌に独自の優れた殺菌力

発生初期の病害の伸展を阻止

赤かび病の原因となるフザリウム属菌とニバーレ菌ともに極めて高い効果

- 特にフザリウム属菌に対して有効
- 強力な発芽管伸長・菌糸伸長阻害作用で植物に侵入した菌を殺菌
- DON（かび毒）低減効果も期待



# 2026年2月4日現在の登録内容（麦類のみ抜粋）

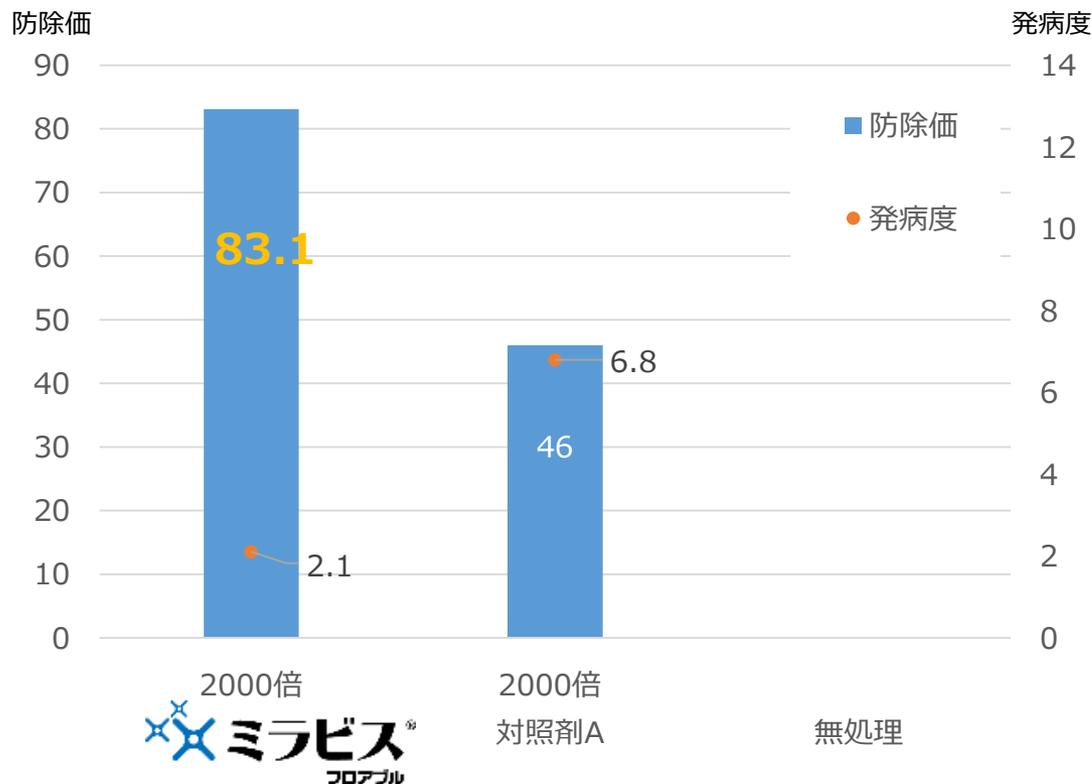
## 適用範囲と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (L/10a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピジフルメトフェンを含む農薬の使用回数
小麦	黄斑病	2000倍	50~150	収穫 7日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
	うどんこ病	1500倍					
	赤さび病 葉枯病	1500~2000倍					
	赤かび病	250~500倍	25			無人航空機 による散布	
		8~16倍	0.8				
大麦	赤かび病 網斑病	1500~2000倍	60~150	収穫 14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内
	赤かび病	8~16倍	0.8			無人航空機 による散布	



# アデピディンの殺菌力 各種赤かび菌に対する優れた効果

## 本州での試験事例



2013年 宮城県古川農業試験場  
品 種：ゆきちから

播 種：2012年10月19日  
開花期：2013年5月26日

接 種：5月31日、6月7日(*Fusarium  
graminearum*)

発生状況：中発生(接種)

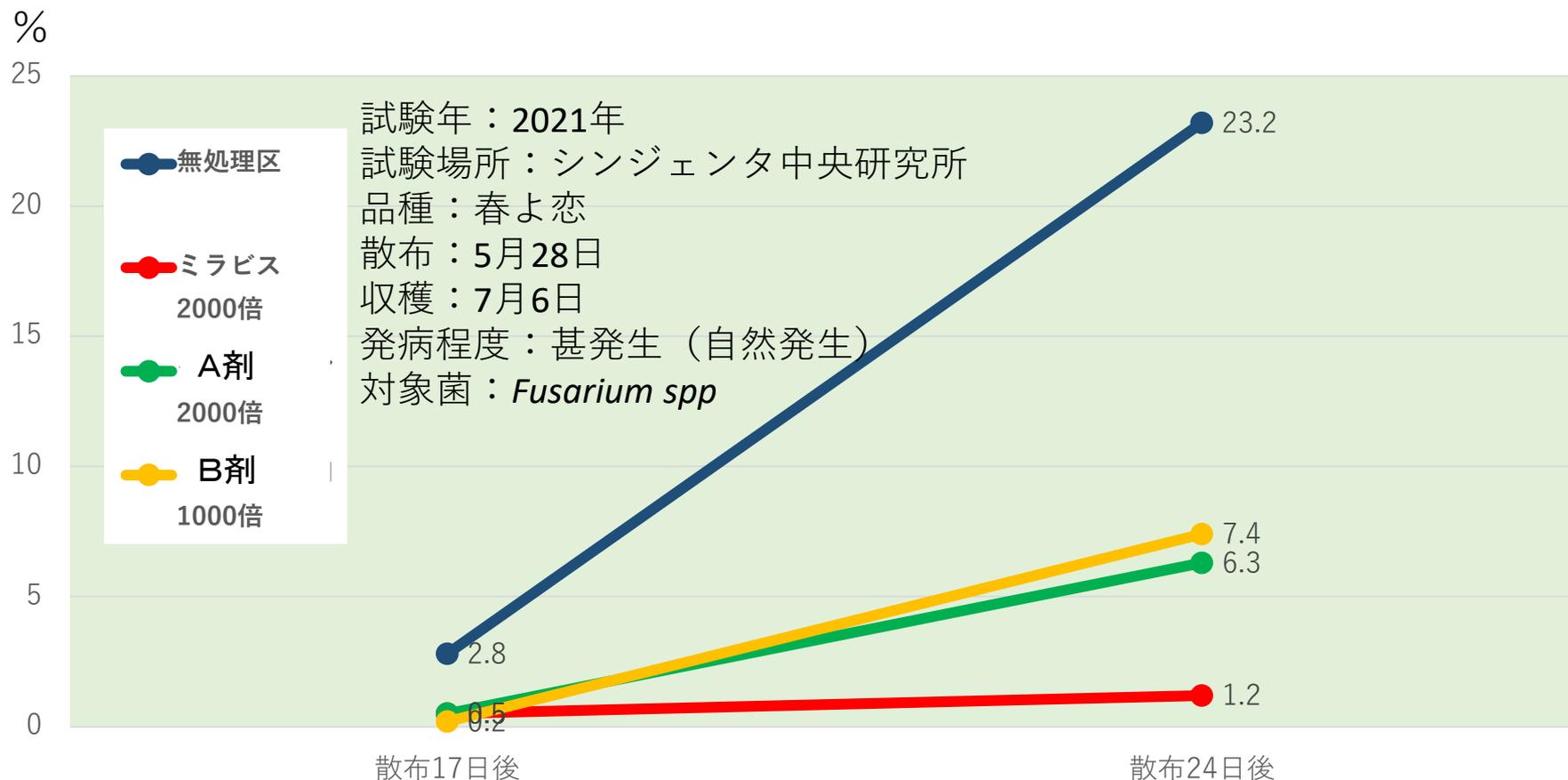
処 理 日：5月27日、6月4日、13日  
調 査 日：6月24日

調査方法：各試験区主茎50穂について、  
発病穂数と発病指数(Ban and  
Suenaga,2000)を調査し、発  
病度を算出した。

アデピディンはフザリウム属菌・に対し優れた防除効果を発揮する

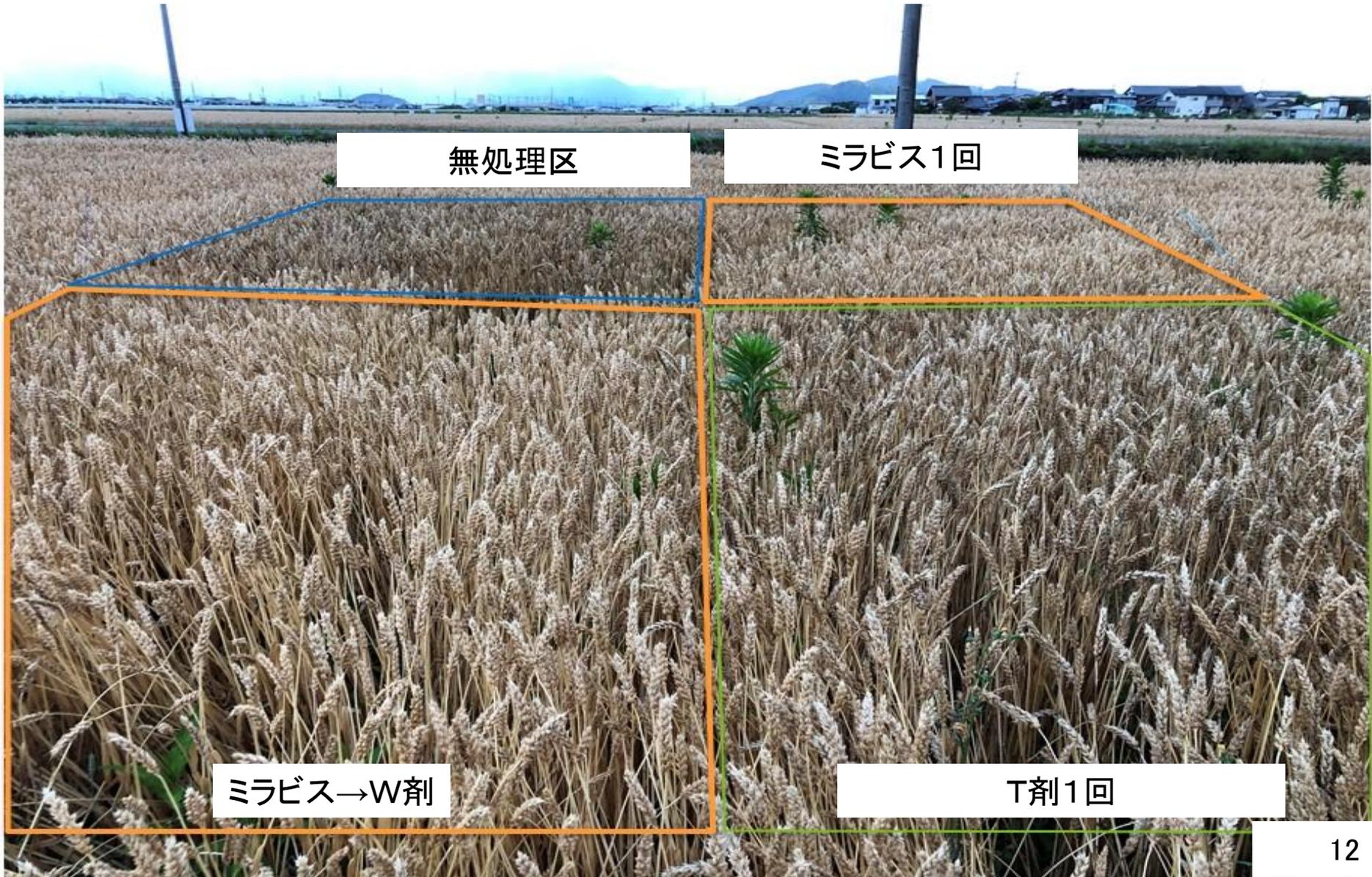
# 2021年シンジエンタ社内試験

赤かび病発病小穂率(%)比較：防除効果の推移（各剤開花始期 1 回防除）



無処理が甚発生となる条件下で、ミラビスは感染防止効果が最も高いことが示された。

# 2022年滋賀県現地試験



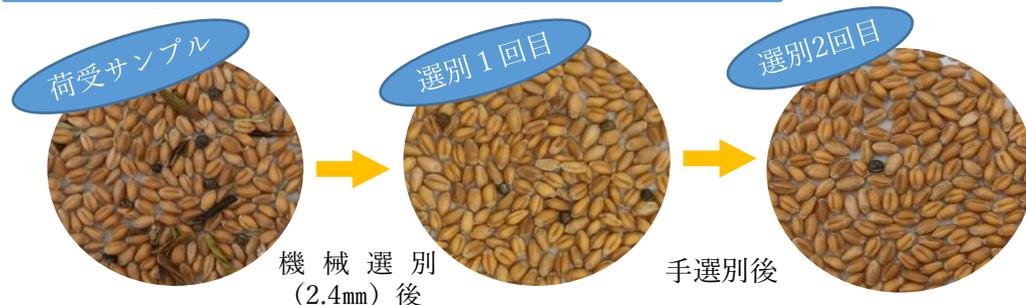
# 麦畦畔除草について

R7年産でも、カラスノエンドウ等雑草種子の混入が目立った。

→本田で草タネを付けてしまう雑草が畦畔から侵入するのを防ぐ！！



R6年産 カラスノエンドウ混入麦選別工程



## ➤ 有効成分

グルホシネートPナトリウム塩 11.5%

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
小麦	—	一年生雑草	耕起又は (は種前 (雑草生育期)	300~ 500mL /10a	100~ 150L/10a	1回	雑草 茎葉 散布	4回以内 (は種後は3 回以内)
大麦	圃場内の 周縁部		収穫7日前 まで (雑草生育期)			3回以内		

